

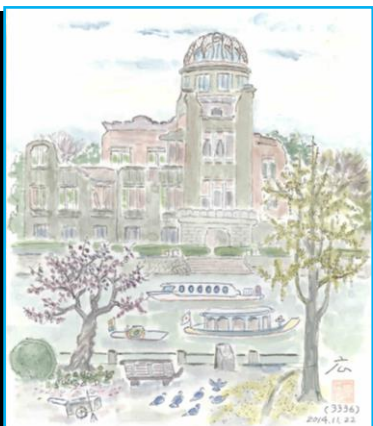
原爆の実相と核兵器の恐ろしさ学び、1人ひとりが平和の大切さを肌で感じる。 ～第26回ヒロシマ現地学習行動②～



※2019年8月7日【講演】被爆証言の会：山岡美知子氏

2019年8月7日(水)、第26回ヒロシマ現地学習行動にて「学習講演会」を開催し、被爆証言の会：山岡美知子氏(被爆体験伝承者1期生)から「語り継ぐヒロシマ」と題して講演を頂きました。山岡氏は、ピースボランティアとして「広島平和記念資料館」や「平和記念公園」をガイドし、国内外の人たちに被爆の実相を伝えて続けている“伝承者”です。

講演では、戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさ、原爆の実相などを語って頂きました。「過去を振り返らない者は、同じ過ちを繰り返す運命にある」「原爆物語にしてはいけない。あったことを正確に伝えることが大切である」「皆さんの手で平和な社会をつくってほしい」との言葉は、参加した1人ひとりに問われている言葉でもありました。参加者から「戦争は人が人でなくなるもの」「戦争の本質と核兵器の恐ろしさを知ることができた」「過去を振り返らないから同じ過ちを繰り返すことは、現在の私たちにも問われていることだと感じた」「平和の大切さを学ぶことができた」など多くの感想が出されました。



被爆証言の会：原廣司(はら・ひろし)さんが今年4月14日ご逝去されました。87歳でした。謹んでご冥福をお祈りいたします

原さんは、国鉄職員を経て、旧矢野町議を3期務めました。1984年、証言活動に取り組む被爆者による「ヒロシマを語る会」の創設に加わり、後に代表にも就任しました。その後「被爆証言の会」を設立。原さんのガイドによって、JR東労組青年部の「碑めぐり」の基礎をつくっていただきました。原爆ドームの絵は1984年ごろに描き始め、3,300枚以上を残しました。

※被爆証言の会：原 廣司氏 ※原 廣司氏が描いた原爆ドームの絵(3,336枚目)

2015年8月7日 学習講演会にて

「老人は過去を語り、若者は未来を語る」

JR東労組青年部が、ヒロシマの地で原さんから教えていただいた大切な言葉です。多くの「いのち」が奪われた戦争の悲惨さ、原爆の恐怖など、原さんが体験した痛苦な想いと平和の尊さを、私たちは学びました。原さんの言葉の1つひとつが、「平和のバトン」であり、私たちはそれを受け取り、後世に受け継いでいかなければなりません。原さんとともに歩んできた「ヒロシマ現地学習行動」は、今年で26回目を迎えました。JR東労組青年部は、今後も平和な社会の実現に向けて奮闘します。

原さんの「平和の詩」

平和とは、人の命を守ること。人の命を守るとは、平和を守ること。
戦争は人の命を奪い、悲しみ、苦しみを与え、不幸にするもの。

